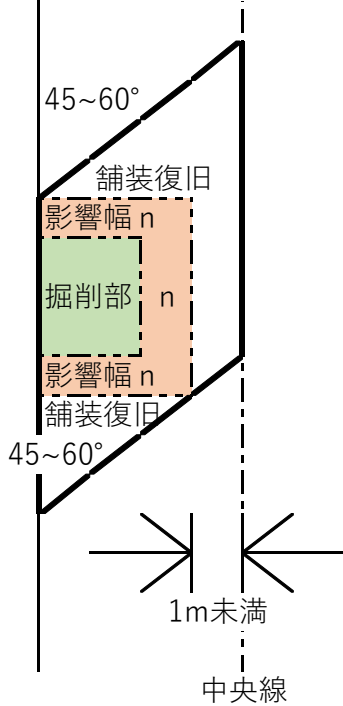


①全幅復旧の場合の A s 舗装復旧範囲（端部処理）の例

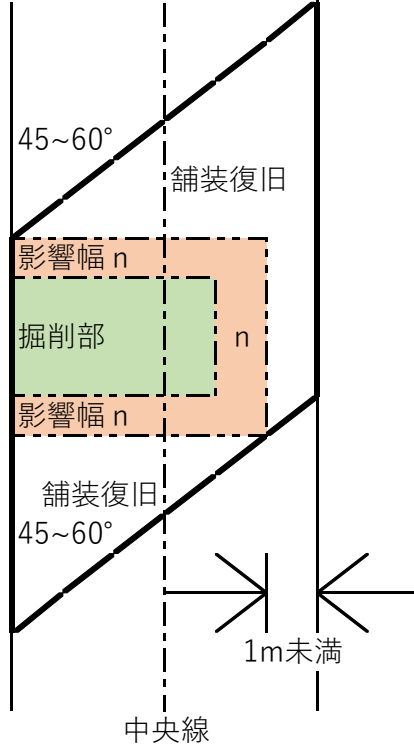
掘削（横断）の影響幅（ $n = 50\text{ cm}$ ）を確保した際に、既設舗装の幅（※1）が1 m未満の場合

(a) 片側全幅の場合

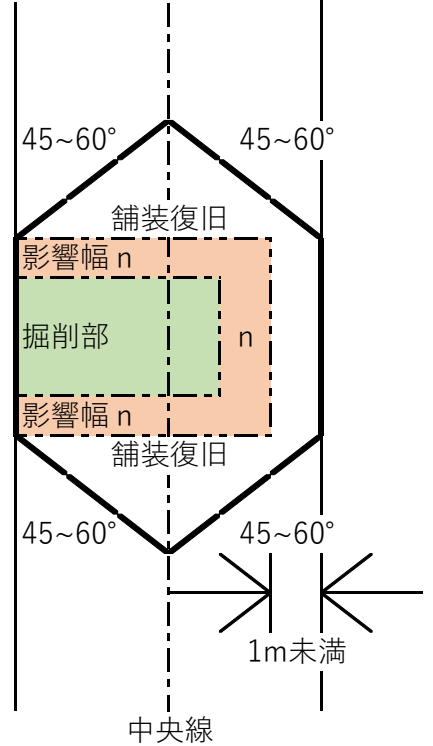
（又は1車線全幅の場合）



(b-1) 両側全幅の場合



(b-2) 両側全幅の場合



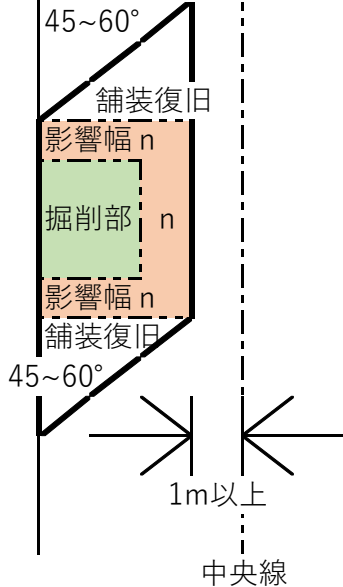
【b-1、b-2はどちらの形状でも選択可】

②影響幅復旧の場合の A s 舗装復旧範囲（端部処理）の例

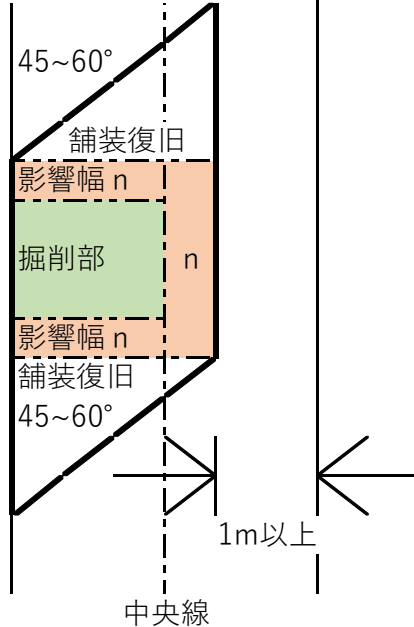
掘削（横断）の影響幅（ $n = 50\text{ cm}$ ）を確保した際に、既設舗装の幅（※1）が1 m以上の場合

(a) 中央線を越えない場合

（又は1車線の場合）



(b) 中央線を越える場合



※1 中央線がある場合は中央線までの幅とする。ただし、1車線でも幅員が6.5 m（2.75 m + 2.75 m + 0.5 m + 0.5 m）以上の場合は、中央線がある場合と同様に取り扱う。

※2 原形がA s 舗装で歩道の掘削（横断）の場合は、掘削部と影響幅部分を舗装復旧範囲とする。なお、縦断方向の掘削については、復旧幅にかかわらず、上図の端部処理は不要とする。原形がC o 舗装の場合は、掘削部（縦断・横断）を舗装復旧範囲とする。